

全国労働組合交流センター結成アピール

日本労働運動の歴史的転換期に際し、反「連合」・反統一労組懇の旗を鮮明に掲げ、われわれは本日、ここ国労会館において、全国労働組合交流センターを結成した。真に階級的で戦闘的な労働運動の新たな全国潮流の形成をめざし、荒海にむかって船出する。この激動の時代に、われわれは自らが操舵士となり、あらゆる困難をのりきっていく気迫と情熱に燃えている。われわれ労働者階級こそ、社会を動かす原動力である。本来、労働者の政治的、経済的要求を実現し、労働運動の階級的前進をはかるべき労働組合が、多くの場合、これを裏切っているのが現実である。われわれは未組織労働者であろうと、また失業者であろうと、一人の労働者が苦しいときに真に頼りにすることができる本物の労働運動、帝国主義の圧制に対決する労働運動をつくっていく決意である。

右翼労戦統一は政府支配階級による右からの分裂攻撃である。総評労働運動に代表される戦後労働運動を解体しつくし、資本を擁護する運動へと変質させようとするものである。この攻撃にたいして、総評は完全に屈服し、この秋には自ら解散し「連合」のもとに吸収、合併されようとしている。

資本の利益を貫くため、労働者の権利を売りわたし、労働者に奴隷の屈服を強いる「連合」は断じて「労働組合」の名に値しない。資本による大量首切り、出向、配転、一時帰休、労働強化、賃下げにやら対応せず、むしろそれを推進しているのが「連合」である。「連合」は政府自民党の軍事大国化、改憲を支持し、安保、自衛隊を承認し、原発を推進し、行革や臨教審を認め、税制改革にも協力している。また、国鉄分割・民営化攻撃を権力・資本と一体となって推進してきた鉄道労連は、いまや自民党支持を公然とうちだし、「日の丸労働運動」を掲げ労働運動破壊の先兵と化している。このように新たな産業報国会の道を進む「連合」に、われわれは断固として反対する。

他方、日本共産党「統一労組懇」は、労働運動の日共のもとへの囲い込みと分裂策動をつよめている。「自治体労働者奉仕者」論や「教師聖職」論にみられるように、帝国主義に屈服した労働運動は結局、労働者階級を裏切るものでしかない。議会主義路線のもと、労働運動を共産党の選挙の道具にして、権力・資本と実力闘争で必死で闘っているあらゆる戦線で敵対を深める統一労組懇に断固反対する。

「連合」にも、統一労組懇にも労働者の未来はない。われわれの立場は鮮明に、反「連合」・反統一労組懇である。

右翼労戦統一攻撃の下、三千万人をこえる未組織労働者が差別・抑圧に苦しんでいる。われわれは、未組織労働者をはじめ、争議団・下請け・パート・派遣労働者、女性労働者など資本の強搾取と差別・抑圧に苦しむすべての仲間と連帯し、その生活と権利を守るため闘う。国鉄清算事業団四千名の仲間を支援し、連帯して闘う。アジア人労働者への無権利状態の強要と強搾取に反対し、排外主義を許さず真の国際主義の立場から連帯して闘う。また、反戦、反基地、反原発、反安保の闘い、三里塚をはじめとする農民の闘いや地域の住民・市民運動と連帯して闘う。

差別と侵略の象徴である天皇制・「日の丸」「君が代」支配に労働者人民の怒りは高まっている。リクルート疑獄、消費税導入実施に怒りは頂点に達している。労働者人民に犠牲を強要し、私腹を肥やす権力者どもを断じて許すことはできない。われわれは天皇制攻撃と対決し、自民党政府の暴挙を断じて許さず闘いぬく。

われわれは「自力・自闘・連帯」を原則に、いまこそ総評労働運動を真にのりこえる階級的戦闘的労働運動の全国潮流形成にむかって全力で奮闘する。資本の強搾取と差別・抑圧を断じて許さず、労働者の未来を自らの手で切り開こう。すべての労働組合、労働者は各地方、各地域に「交流センター」を結成し、「全国労働組合交流センター」に結集しよう！

一九八九年二月二六日

全国労働組合交流センター結成大会